【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　三重幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	夢中になって遊ぶ環境や体験を通した遊びの充実	4
主な方策 成果と課題	・広い園庭で思い切り走ったり、様々に身体を動かして遊ぶことを楽しめるように環境を工夫した。子どもの興味に合わせ、やってみたいと自主的・主体的に参加しようと思えるような体操などの教材研究に努め、取り入れた。消極的だった幼児も少しずつ動き出すようになった。 ・100%の保護者から教育アンケートで「体を動かす遊びに興味をもったり、体を動かして遊ぶことが好きになったか」で「そう思う」と評価が得られた。 ・保育者も一緒に遊びを楽しみ、いろいろな遊びを経験できるようにした。好きな遊びを見つけ、友だちと一緒に試したり工夫したりして遊ぼうとする姿が見られるようになった。 ・竹馬や竹ぽっくりなどへの挑戦も継続的に行い、運動会後、暑さがやわらいだ時期に発表の場を設け、意欲につなげた。自信をもって意欲的になった。 ・スーパーバイザー要請研修などを通して、大学の先生に保育を公開し、どのような育ちがあるのかを考えたり、遊びの中の学びについて検討することができた。	

重点目標２	思いを伝え、共感し合い、受け入れ合う幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	・日々のカンファレンスの中で幼児の言動から一人一人の幼児の心のうちを探り、職員で見方を話し合いながら、適切な関わりについて研修を行った。職員全員で共通理解して関わることで、安心感をもって生活する姿につながった。 ・常に自分の保育や関わりを振り返り、幼児理解に努めた。保育者が一人一人を受け止め、丁寧に関わる姿から、幼児同士も互いを受け止め合う姿へとつなげた。自分も友だちも大切にしようとする姿が見られる。 ・それぞれの思いをしっかりと受け止めることで安心して自分の思いを伝えられるようになり、友だちの思いにも耳を傾け、寄り添う姿が見られるようになった。 ・朝の「おはよう」が言えない姿が見られる。心地よい朝の出会いを改めて考えて関わった。 ・地域の人と関わる機会や感謝の気持ちを伝える場面を意図的に作ったことで、子どもたちが自然体で親しみをもって接することができるようになった。	

重点目標３	豊かな心と丈夫な体の育成	3
主な方策 成果と課題	・長期休業前には、終業式に保護者も招いて園児と一緒に休業中の過ごし方を伝えた。連携していくきっかけ作りとなった。 ・生活習慣の定着については個人差があるので、一人一人の姿に応じた丁寧な関わりが今後も大切である。 ・食育だよりを毎月発行し、その時期の子どもの姿から、箸の使い方や旬の食材の収穫祭でのレシピ、三色の栄養素など興味のある内容を職員間で相談し合った。苦手な物も園では食べられ、保護者が驚く姿も見られた。 ・朝、眠そうな幼児や、園に登園しても身支度に気持ちが向かない幼児も、保護者とともにどうするとよいか丁寧に聞き取りながら話し合うことで、意識が出てきている。	

重点目標４	楽しく豊かに自然とかかわる幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	・カブトムシの土の中にキノコが生え、何という名前のキノコなのか、iPadを使用して食べられるのかを調べたり、見つけた昆虫も調べることで興味が広がった。カエルを捕まえて飼育することで、命の大切さにも気付き始めている。 ・地域の人の協力で柿や季節ごとの旬の野菜を味わうことができ、柿は木からもぎ取る経験、実体験ができた。様々な野菜などを収穫し、簡単な調理を経験して食べることで食への興味関心が深まった。苦手な物も食べてみようとする意欲が育った。 ・畑に出かけるだけでなく、日頃から草花を摘んだり小動物を見つけて捕まえたりする時間も大切にした。園外に出かけ、四季の移り変わりを感じるよい機会となった。 ・寒い日にはバケツに水を貯めておき、どうなるかを子どもたちと楽しみながら実験したり、雪の山を削ってトンネルを作ったり、遊びながら自然と関わることができた。	

２　改善方針

・個々に捕まえた生き物を扱うだけでなく、クラスの中で大切に育てる飼育経験をすることで、より命を大切にする気持ちが育つのではないか。また、地域巡りや散歩などを多く取り入れ、自然と関わる機会をさらに工夫する。
・日々の保育を保護者に掲示するなどして育ちや学びを継続して発信してしていく。
・保護者と連携して取り組みを進め、今つけたい力や必要な援助について考え合い、成長につなげていくことが大切である。
・来年度は５歳児クラスのみで過ごすので、校区内の保育園、こども園との交流を積極的に行い、関わる力をつけていく必要がある。また一人一人の発達や姿を理解し、個の育ちから集団の育ちへとつなげていくことが大切である。
・今後も引き続き、登園への意欲につながるように日々の保育環境（物的・人的）を研究し、見直して工夫していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　下野幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	健康な心と体づくりと家庭・地域・こ保小中との連携	4
主な方策 成果と課題	・園生活を安心して過ごし、人と関わることの心地よさを感じられるよう、一人一人の思いを肯定的に受け止め、一緒に遊び楽しい時間を共有することで信頼関係を築いてきた。幼児の気持ちに寄り添い関わってきたことで、自分の思いを安心して伝えたり、身近な人に言葉をかけたり温かい表情を見せたりする姿が見られた。 ・家庭と連携し、身の回りのことをすすんで取り組めるように、認めたり励ましたりして、自信につながるようにしてきた。基本的な生活習慣が定着してくると、遊びや活動に広がりが見られるようになってきた。 ・こども園と日常的な交流や合同保育を行ったことで、いろいろな友だちと関わる楽しさや、協力してやりとげる達成感を感じることができ、心の成長につながった。 ・地域の方の協力で田植えや稲刈り体験、収穫した米を使った食育活動を行い、地域への愛着を感じることができた。また老人会と三園交流を持ち、地域の方から大事にされる体験をすることができ、自己肯定感につながっている。 ・地域の園同士がつながり、小中と連携を密に持っていきたい。	

重点目標２	様々なことに主体的に取り組み、試行錯誤しながらやり抜く力を養う	3
主な方策 成果と課題	・絵本の読み聞かせや、語りの会による素話、貸出絵本等を通して、聞く心地よさや物語のおもしろさを感じられるようにした。 ・固定遊具や巧技台などを使ったサーキット遊び、親子で作った竹馬や竹ぽっくりなどに取り組み、幼児の気持ちに寄り添いながら、やってみようとする気持ちを育んできた。友だちから刺激を受けて、根気よく取り組んだり、友だち同士認め合ったりするようになった。 ・ルールのある遊びの中で、時には悔しさを感じたり、互いの気持ちに気付いたりして、友だちと一緒に過ごす楽しさを感じることができた。 ・こども園と合同で運動会を行ったことで、地域の中の同学年の友だちの中で育ち合う経験ができた。 ・生活発表会では子どもたちのやりたいことや、遊びを中心にした活動を取り入れ、相談したり、協力したりして作りあげる中で、主体的に取り組むことができた。	

重点目標３	自分の思いを表現し、互いのよさを認め合える関係づくり	4
主な方策 成果と課題	・学年や全体の場で、幼児が自分の気持ちを周りに発信できる機会を日常的に持ち、友だちに関心を寄せ、関わりにつながるようにしてきた。しだいに子ども同士で遊びをすすめたり、意見が違う場面でも解決しようとしたりするようになった。 ・日々の遊びや様々な体験活動の様子をドキュメンテーション記録として、写真掲示することで、幼児の表情や心の動きを園児・保護者・職員が共有することができた。 ・ドキュメンテーション記録を活用し、幼児の気持ちを理解し、職員間で共有することで、幼児が主体的に活動に取り組めるような手だてを考え、環境を整えた。またエピソード記録をもとに、幼児の内面を丁寧によみとり、仲間づくりにつながるような援助を工夫することができた。	

２　改善方針

・動画や写真、エピソード記録を活用し、主体的に遊びに取り組むための環境や、遊びを通した学びについて職員が共通理解できるように研修を行う。
・家庭と連携し、子どもへの思いや願いを共有し、幼児にとってどのような経験が必要かなどの話し合いをすすめていく。
・地域の環境や人材を活かし、家庭や園だけでは経験できない体験活動を取り入れていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立羽津幼稚園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	遊びの中の学び	4
主な方策 成果と課題	・1学期は保育室の遊びを好む子が多かったが、先生と一緒に追いかけ遊びなどを繰り返し楽しみ、次第に戸外で体を動かすことが心地よいと感じられるようになった。 ・製作遊びでは、最初は「〇〇やって」と保育者にすぐに手伝ってほしい様子がみられたが、子どもが扱いやすい箱や色画用紙等の素材を準備し、自分で考えて作れるよう援助してきた。次第にどの位の大きさの箱で作るといいかや、テープの必要な長さを考えながら、自分なりに試行錯誤して作れるようになった。 ・自分で選べる遊びの環境を整えてきたことで、好きな遊びを見つけられるようになっていった。また、お店屋さんごっこで看板やメニュー表を作る等、文字や数にも興味を持ちながら遊ぶことができた。今後も遊びが楽しく発展していくよう援助し、様々な学びが深まるようにしていく。 ・近隣の幼稚園で一日過ごす機会（合同保育）を年間を通して設けたことで、４歳・５歳のそれぞれの成長や発達に合わせた遊びの保障をすることができた。	

重点目標２	人とのかかわり	3
主な方策 成果と課題	・友だちのしている遊びを先生が言葉で伝えるなど意識し、周りの子ども達に分かりやすく発信していくようにした。個々の好きな遊びや得意な遊びを保育者と共に楽しんできたことで、友だち同士が互いに素敵なところに気づき、次第に一緒に遊べるようになった。 ・泣いたり怒ったりする友だちの感情をその子なりの表現として捉え、何で困っているのか等、周りの友だちと一緒に考えていくように努めた。次第に相手の気持ちに寄り添おうとしたり、言葉で伝えようとする姿もみられるようになった。 ・友だちと思いや考えが違ったりしてトラブルになった時、どうしていいか分からず戸惑い、保育者の声かけが必要な時があった。友だちを思う気持ちは育ってきているので、今後はどのように思いの伝え合いをしながら解決していくといいのかを、遊びの中で経験していけるようにする。	

重点目標３	保護者・地域とのつながり	4
主な方策 成果と課題	・保護者の送迎時に直接子どもたちの様子を伝えたり、遊びの場面の写真を掲示したりすることで、子どもたちが経験したことや育ちを知ってもらえるようにしてきた。その掲示物がきっかけとなり、保護者と保育者との会話や親子同士の会話につなげることができた。 ・保護者同士のおしゃべり会を開催したことで、お互いを知り合ったり、コミュニケーションを取り合ったりするきっかけになった。今後も子どもの育ちについて等、共に語り合える関係づくりを築いていくようにする。 ・地域の方のご厚意で、芋ほりや楽器演奏など、様々な体験をさせていただく機会があった。体験の回数が重なる度に、人と関わる嬉しさが感じられるようになった。また、初めて出会う方と挨拶する機会も増え、挨拶し合う心地よさも感じていくことができた。今後も地域の方との触れ合いを大切にし、継続していく。	

重点目標４	魅力ある園づくり	4
主な方策 成果と課題	・遊びの中で、子どもたちの持っている力を十分に発揮できるようにするにはどうしたらいいか、また、遊びの環境をどのように工夫していくとより遊びが楽しくなるかなど、日々職員同士が話し合ってきたことで、子どもの育ちにつながる援助方法のレパートリーが増えた。 ・職員の資質向上につながる研修を積極的に受講し、学んだことを園内で還流報告し、保育内容に反映していった。羽津の学びの一体化校区の公開保育や、四同研大会での提案や、幼児教育や特別支援に関わる研修等、園内研修の内容や回数が充実したことで子どもたちの遊びや学びが豊かになり、生き生きと遊ぶ姿につながった。今後も、今までの取り組みを積み重ねながら子どもたちのための職員の学びを継続していく。	

２　改善方針

・目の前の子どもの育ちの姿に合わせ、その都度必要な環境を整え用意することが多かった。「遊びの中の学び」が日々継続していくよう、職員同士で連携を取り合いながら、計画的に遊びの環境を準備をしていくようにする。 ・自分の思いや考えを相手に伝えるだけで満足するのではなく、相手の思いに寄り添ったり考えたりできるような機会を今後も増やしていき、相手の話を聴こうとする態度を養っていく。 ・翌日以降に予想される子どもたちの遊びの内容を全職員で確認し合い、園全体の教育計画（カリキュラム）に位置付けていく。子どもたちの遊びや学びが充実したものになるよう、話し合いの時間を十分に確保していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　富洲原幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	①遊びの充実を図る。	3
主な方策 成果と課題	・保育者は幼児の遊びが充実するよう指導計画を立て、環境の工夫をしてきた。しかし、じっくり遊びこめなかったり、単発的な遊びになり継続・発展につながらないことが多かった。 ・日々の遊びや生活の中、また体験型活動やこども芸術体験の機会を通して、実際に見たり触ったり味わったりなど五感を活かした体験を多くもてたことで、幼児の興味・関心の幅が広がり、遊びの工夫につながったり知的好奇心や豊かな感性が育まれたりした。 ・こども園との継続的な交流の中でリレーや集団遊びを取り組むことができ、集団で遊ぶ面白さや協力し合う楽しさを感じることができた。また、待つ、葛藤する、大勢で話し合うなどの経験をすることができ、気持ちの面での成長が大きかった。	

重点目標２	②しなやかな心と身体づくりを推進する。	3
主な方策 成果と課題	・幼児が自ら取り組みたいと思える運動遊びの環境を工夫し、ともに楽しんできた。一人一人の思いを丁寧に受け止めることで、自信を持って挑戦したり、安心して取り組む姿が見られた。 ・体験型活動（サッカー、なわとび等）で基本的な体の動かし方を教えてもらったことで、自信を持って意欲的に取り組むようになりしなやかな動きができるようになった。 ・偏食が多い幼児も、園内の畑で栽培活動をして収穫できた喜びを味わったり、自分で調理する嬉しさや楽しさ、大変さを味わったりすることで、食に対しての興味や関心が広がった。	

重点目標３	③人とかかわる力を養う。	3
主な方策 成果と課題	・保育者が幼児のありのままの姿や素直な思いを受け止めるよう意識して関わってきたことで、意欲的に表現しようとする姿や安心して自分の思いを出せる姿が見られるようになった。 ・園では少人数で気心も知れていることもあり、自分の思いを友だちに伝えることやお互いに認められる姿がある。しかし、大人数の中では自分の思いを伝えられなかったり、自分の価値観と違う相手を受け入れにくい姿もあった。しかし、交流を重ねるうちに少しずつ変化が見られた。 ・４・５歳児の自然な関わりの中で憧れや思いやりの気持ちが芽生え、自分の思いを受け止めてもらえる嬉しさを感じ、相手にわかるように伝えようとする姿が見られるようになった。しかし、相手の話を最後まで聞かずに行動したり、話に集中できなかったりする姿がある。	

重点目標４	④家庭・地域との連携を図る。	4
主な方策 成果と課題	・クラスだよりやドキュメンテーションで幼児の楽しんでいる姿や取り組んでいることを発信し、家庭でも園での様子を話題にできるようにしてきたことで、保護者とともに子どもたちの成長を感じることができた。 ・保育者が進んで挨拶をすることで、幼児自身も挨拶される心地よさを感じ、自然と自ら挨拶する姿が見られるようになった。また、園だけでなく家庭の中でも挨拶することの大切さをたより等で保護者にも啓発してきたことで、様々な場面に応じた挨拶が身についてきている。 ・園外保育や体験型活動で地域のあそび場や地場産業を知ったり、行事を通して地域の方と関わったりする中で、自分たちの住んでいる地域への関心が高まった。また、小・中学生との交流で楽しく触れ合うことで、憧れの気持ちが大きくなり小学校への期待を持つことができた。	

２　改善方針

①幼児一人一人の発達や興味・関心をしっかりと捉え、その遊びの中で何を楽しんでいるのかを見極めて環境の工夫や援助を常にしていく。幼児の主体性を引き出し、周りの幼児とつながりながら夢中になって遊びこめるための教師の働きかけの工夫を考え合える職員集団であるとともに、保育者一人一人が、日々の教材研究を大事にし、保育に対しての感性を磨いていく。
②体を動かす楽しさを感じることを大切にしながら、その遊びの中でどんな力がついていくのかを知り、一つ一つの動きや体の使い方などを意識して取り組んでいけるようにする。
③相手に思いを伝えられるよう保育者が一緒に伝えたり、相手がどんな気持ちでいるのかを一緒に考えたりしながら、様々な仲間と関わり、つながっていく楽しさや嬉しさを感じていけるようにする。
③幼児の思いを大切にしながらも、遊びや生活の中でメリハリをつけていくことの大切さやそれによって得られる楽しさを幼児が感じられるように、保育者自身が意識していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　大矢知幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	コミュニケーション力を育てる （先生や友だちと自分なりに表現することを楽しむ。）	3
主な方策 成果と課題	（成果） ・ふれあいデーや体験事業、遊び会や保小中との交流など、様々な人と触れ合う中で、5歳児は自ら関わろうとする姿が増えた。4歳児は、年長の姿をモデルとして関わり方を知ることができた。 ・異年齢間の遊びや活動を通して、４歳児が５歳児に憧れを持ち、共に活動することで遊びに広がりを持つことができた。５歳児は遊びの中で譲ったり、４歳児に分かるように伝えたりする姿が見られるようになった。 ･保育者が一人一人の思いに丁寧に寄り添い、互いの思いを引き出す場面を作ってきたことで、子どもたちが互いの思いを知ろうと話し合う姿が見られるようになった。また、保育者が一人一人の思いを分かりやすく代弁してきたことで、互いの思いに気付く姿が見られるようになった。 （課題） ・親しみをもって様々な人に関わろうとする姿は見られる。挨拶に関しては、それぞれの子どもの気持ちを大事に受け止めながら、引き続き保育者がモデルとなり、挨拶をする心地よさが感じられるよう取り組んでいきたい。 ・様々な場面で子ども同士で話し合えるように意図的に作ってきたが、自分の思いが表現しにくい姿や自分の思いとは異なる思いを受け入れにくい幼児の姿ある。保育者は、じっくり子ども達の思いを聞き取る中で、お互いの思いを知ることができ、そのことは幼児理解につながる。子ども達に様々な思いがあることを伝えることで、子ども自身に気付かせ、どうしたらいいかを子ども達と共に考えていきたい。	

重点目標２	体力のある子どもを育てる （進んで体を動かし自分の体を大切にしようとする。）	4
主な方策 成果と課題	（成果） ・サーキットや竹馬など、十分に体を動かせる環境を整え、一人一人に合わせて計画したことで進んで体を動かす意欲につながった。保護者アンケートからも９割が体を動かしたり遊ぶことが好きになったと回答している。 ・ドッジボール・鬼遊びなど大勢で、思い切り体を動かして遊ぶことの心地よさを感じることができた。 ・手洗い・うがいなど、保育者がモデルとなって関わり必要性を繰り返し伝えることで、丁寧に取り組み、習慣として身に付いてきた。 ・食べ物へ興味が持てるよう食育活動を意識して取り組んできたことで、様々な食材を食べる姿につながった。また、食育の講演会やクッキンング体験を通して、保護者の意識の変化も見られた。 （課題） ・個人差があり、様々な取り組みに対して躊躇する姿も見られたので、個々のペースを大事にしながら、安心して取り組めるようにし、自信につなげていけるような人的・物的環境を整えていきたい。 ・生活リズムを整える大切さについて、保護者におたより等で啓発してきた。今後も継続して、保護者と連携しながら取り組みを工夫する必要がある。	

重点目標３	感性豊かな子どもを育てる （遊びこむ中で充実感や達成感を味わう）	3
主な方策 成果と課題	（成果） ・5歳児は、友だちとのつながりができてきたことで、自ら遊び方や遊ぶ場を工夫して取り組む姿が見られるようになった。4歳児は、少人数なため保育者が意図的に幼児に合わせた環境を用意し、様々な遊びを提案していくことで自ら好奇心や探求心をもって遊ぶ姿が見られるようになった。 ・友だち同士が、同じイメージや目的をもって、思いを伝え合い、工夫や協力をしながら一緒に遊ぶ楽しさや心地よさを感じており、保育者も遊びを通してそれらの思いに共感してきた。 （課題） ・一人一人の幼児の興味に寄り添い遊びを展開し、幼児同士つなげられるよう保育者の関わりを見直していきたい。 ・少人数であるため、経験できる遊びに限りがあり、異年齢で遊んだり、保育者の役割や環境を工夫したり柔軟に対応する必要がある。 ・保護者に対して、ドキュメンテーションで保育内容を発信してきたが、幼児の主体的・対話的学びが体験からであることを、実感できるよう伝える工夫が必要である。	

２　改善方針

＜コミュニケーション力を育てる＞
・保育者が、一人一人の興味のある遊びを通して、一緒に楽しさを共感する中で、他児とのつながりのきっかけを作っていく。ごっこ遊びなど他児とやり取りをする楽しさを感じられるように環境を整える。
・挨拶の心地よさや様々な人と関わることの楽しさを感じられるように、保育者がモデルとなり関わり方を知らせ、様々な場面で園外の人と関わる場を持てるように教育計画に組み込んでいく。
・様々な場面で自分なりに感じたり考えたりしたことを、言葉や表情で伝え合えるようにし、必要に応じて、保育者が仲立ちをして、幼児の思いに気付いたり自分と違う考えを持っていることを知り、お互いの思いを伝え合う機会を設けていく。
＜体力のある子どもを育てる＞
・基本的生活習慣については、家庭での生活の仕方が大きく影響するので、一人一人の生活リズムを保護者とも連携しながら把握し、取り組んでいく。また幼児自身が必要性に気付き、自ら取り組めるようきめ細やかな援助をしていく。
・苦手なことや初めてのことに対しても、安心して取り組めるように、取り組みの方法や機会を工夫していく。
＜感性豊かな子どもを育てる＞
・幼児一人一人の姿や興味を探り、生き生きと遊びを楽しめるように、教材研究や園内研修に努め、遊びの提案や場・用具・教材の提示をしていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立常磐中央幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	幼児の興味・関心や意欲が高まるなかまづくり	4
主な方策 成果と課題	（成果） 　一人一人の幼児の姿を丁寧に捉え援助してきたことで、身の回りのことを自らしようとする気持ちが育った。 　幼児のつぶやきや表情から、興味や関心を探ると共に、内面の理解に努めた。保育者も一緒に遊び、幼児のやってみたい気持ちを引き出すことができた。幼児自らが遊びを見つけ、じっくり遊び、安心して園生活を過ごすことにつながった。 　お店屋さんごっこや段ボールハウスなど、互いに声をかけ合い、幼児同士で作り上げていく楽しさを感じることができた。また友だちとの関係を広げ、深めることができた。 （課題） 　幼児の興味、関心を大切にしながら、更に遊びを広げたり、継続させたりするための環境構成や援助を実践していくことが課題である。	

重点目標２	非認知能力を育成するための環境構成と援助の在り方	3
主な方策 成果と課題	（成果） 　視覚教材を用いて園生活の流れや身の回りのことに見通しを持てるようにしたことで、幼児が自ら主体的に環境にかかわる姿につながった。 　試行錯誤して遊ぶ環境を意図して設定したことで、意欲的に遊ぶ姿もみられた。色水や泡遊び砂場など、遊びのイメージがもてると遊びに参加し、繰り返し楽しむ姿がみられた。教師も一緒に遊び、共に考えイメージを膨らませながら遊ぶことでさらに遊びが充実し感じたことを表現することにつながった。ごっこ遊びなど幼児の興味のあることから遊びが発展し、遊びを考えていく楽しさを味わうことができた。また、普段の遊びを運動会に取り入れ、体を動かして遊ぶことが好きになった。 （課題） 　一人一人の幼児への援助を学級、園としての遊びへとつないでいく手だてが必要である。	

重点目標３	豊かな人間性および人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	（成果） 　人権教育、特別支援教育の充実を図り、幼児が自分のことも相手のことも大切に思う気持ちがもてるよう取り組んできた。保育者が幼児一人一人の声に耳を傾け、姿を温かく受け止める姿勢を大切にしてきたことで、相手のことを考え接しようとする姿につながった。ふれあい遊びやルールのある遊びを通して、友だちと交わり、友だちの思いや行動に気付き、自分の気持ちに折り合いをつけたり、気持ちが通じ合う経験が出来た。遊びを通して、人と関わる心地よさを感じられるようになった。欠席している友だちのことを思ったり、長期欠席をしていた幼児が登園してくる姿を見つけ、門まで駆けつける姿など見られるようになり、人と関わる力が育成できた。 （課題） 　園外で出かけることが少なかったので、年間を通した園外保育の計画および「ねらい」の見直しをしていく。	

重点目標４	保護者・地域(保幼小中)との連携および職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	(成果) 　送迎時や家庭訪問、懇談会などを通し、保護者との連携を深めることができた。 　保護者に幼児の家庭での様子を聞き、保護者の思いを大切にしながら、共に幼児の成長を考えることができた。 　地域との連携では、定期的に会議に参加したり、公開保育、授業に参加し合うなどし、地域で育つ子どもたちを地域で支えていくこともできた。 　幼児理解に努め、職員間で常に情報共有をすることを心がけ、幼児の姿や援助を振り返り、次の保育に活かせるように話す機会を多く持つことができた。 (課題) 　地域での公開保育、授業に積極的に参加できたが、そこでの学びを職員の資質向上に結び付けていくための園内研修を定着させていく必要がある。積極的に園内研修の機会をもち、資質向上に努めていかなければならない。	

２　改善方針

幼児の非認知能力を育成するためには、幼児が主体的に遊び込むことが不可欠である。幼児の主体性を育むためには、保育者の主体性が求められる。そのため、保育者自ら主体性をもって研修、実践に取り組み、その学びを園内研修で還流し合い、高め合っていくことを大切にしていくことが改善方針となる。 　いろいろな方向から意見を出し合い、自分の保育を見直し、幼児の発達につながる援助をしていくため、計画的な園内研修を行っていく。また、職員が連携し共通認識のもと、保育ができるように努める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　四日市幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	豊かな心と丈夫な体の育成	4
主な方策 成果と課題	・マンションやビルが建ち並び、自然と触れる機会を持つことが難しい環境である。そのため、季節の植物や木の実などを掲示したり、手に触れたりできるよう設定してきた。自然を身近に感じることができ、次第に自分たちで探したり不思議さや面白さを発見したりする姿が見られた。 ・虫や小動物に対して苦手意識を持つ姿があった。虫に興味を持つ友だちと出会い、虫を捕まえたり観察したりする中で興味・関心が広がった。自園でも継続して虫を飼育するなど工夫したことで、生き物の命の大切さについて学ぶことができた。 ・保育者が遊びの一員となり、戸外で一緒に体を動かして遊ぶことで、体を動かす心地よさを感じることができた。また、バランス感覚やしなやかな動きが身につくように表現遊びやサーキット遊びなどの遊びを取り入れた。 ・竹馬や固定遊具などに挑戦できるように励ましてきたことで、根気よく取り組む姿が見られた。また、幼児の姿や活動に合わせて、体験型教育活動（体操教室）を計画したことで、鉄棒や跳び箱などに目標を持って楽しむ姿があった。	

重点目標２	人とかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	・遊びの中で、保育者が架け橋となり、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりできるよう援助してきた。次第に相手の思いを感じとり、自分たちで解決しようとする姿が見られた。 ・様々な人とかかわる経験ができるように地域の行事に参加したり、保育園、小学校、中学校へ行く機会を計画的にもった。また合同保育では、最初は緊張や不安な姿があったが、遊びを通していろいろな友だちと関わる心地よさを感じた。 ・保育者が幼児と目を合わせて挨拶をしてきたことで、先生や友だちと挨拶を交わす心地よさを感じられるようになった。次第に地域の人や他園の友だち、小学校・中学校の先生など、様々な人へ挨拶しようとする姿が見られた。	

重点目標３	地域・家庭との連携、協同	4
主な方策 成果と課題	・生活リズムは、家庭でしっかりと身に付けている。園でも丁寧に行えるように確認してきた。今後も家庭との連携を大切にし、一緒に子どもの育ちを考え合うことを努めていきたい。 ・学びの一体化では、ねらいを共有し計画的に乗り入れ授業などを行った。保育園・小学校・中学校の職員と連携し、幼児の興味・関心に合わせた内容を伝え合ったところ、小学生や中学生に憧れ、学校生活に期待を持つ姿が見られた。 ・インスタグラムやおたより等で写真などを活用し、子どもの姿や育ちを家庭に発信することに努めた。	

重点目標４	教育活動の充実	3
主な方策 成果と課題	・職員同士が連携し、幼児理解に努めた。合同保育においても職員の連携を大切にし、保育内容を工夫した。また、いろいろな保育者の関わり方や声かけなどを知り、様々な幼児の捉え方を学ぶ機会となった。 ・アドバイザー訪問や大学連携などの園内研修を行い、保育を振り返り、幼児の育ちを考え合うことができた。	

２　改善方針

・地域を身近に感じられるように園外保育を計画的に進めていきたい。 ・今後も様々な研修に積極的に参加したり、園内研修を計画的に進めたりし、保育の質を高めていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　泊山幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	高い自尊感情をもつ幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	○成功体験を積み重ねていくことで、自信をもって行動する幼児が増えた。そうすることで、友だちにも目を向けたり気持ちを寄せたりする姿が見られるようになった。 ○友だちとのかかわりの中で、相手の気持ちを知ろうとする機会を大切にしてきた。その視点で、多くの読み聞かせをしたり、クラスで話題にあげたりして取り組んだ。様々な気持ちがあることに気付き、友だちの思いに寄り添おうとする姿が増えた。 ○幼児が、自分の気持ちを言葉や行動で表現した時に、教師が関わることが多い。しかし、その周りにいる幼児の思いに耳を傾ける意識や姿勢を大事にしたことで、幼児同士が思いを伝え合おうとする姿が多く見られるようになった。また、幼児が安心感をもって過ごし、様々な思いを出せるように関わってきたことで、自分が思ったことや考えたことを伸び伸びと表現する姿が増えた。保護者アンケートの「自分の思いを表情、動作や言葉で表現しようとするようになった」において、保護者の評価が高かった。 ○異年齢の交流・中学生職業体験・中学生保育実習・小学校見学・保幼交流等を多く実施することができた。様々な人と触れ合うことの楽しさを感じ、「こんなふうになりたい」という憧れの気持ちをもつことにつながった。 ◇引き続き、互いの思いを伝え合う機会を大切にし、相手に伝えたい気持ちや、相手の話を聞こうとする気持ちを育んでいく。	

重点目標２	主体的な遊びや体験活動の充実	4
主な方策 成果と課題	○幼児たちの興味関心のあることを拾い、やってみたいと思える教材・素材を考え、環境づくりを工夫した。そのことが、幼児たちの「もっとやってみたい」という気持ちにつながった。そして、夢中になって遊びを楽しむ姿が見られるようになり、大好きな遊びが増えた。また、好きな遊びを十分に楽しむ中で、友だちとのつながりも広がった。 ○幼児たちが不思議に思ったことや発見したことを大切にしながら、環境構成を行ったり関わったりしてきたことで、遊びが様々な学びにつながった。 ○共通の目的に向かって友だちと話し合ったり力を合わせたりする機会を作ってきたことで、幼児同士で遊びを進めたり問題を解決したりする力が育った。 ○園庭の自然に触れたり遊びに取り入れたりする機会を作ったことで、自然に親しみをもち、遊びのイメージを膨らませることができた。 ○幼児たちの遊びをドキュメンテーションにして掲示することで、友だちが楽しんでいる遊びにも興味をもち、やってみようとする姿が見られるようになった。 ◇日々の話し合いを大切にしながら職員間で連携を図り、園全体での取り組みにつなげていく。 ◇安全性を考慮した上で、どのような活動や経験が可能であるのかを検討し、園外に出かけ、自然に触れる機会を増やしていく。	

重点目標３	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	〇自分のことを自分でする経験を積み重ねてきたことで、自信をもって身の回りのことをしようとする幼児が増えた。 〇教師も遊びの一員となり、幼児たちが思いきり体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるよう関わってきた。そうすることで、異年齢が混ざり合いながら、運動遊びを楽しむ姿が見られた。 〇教師が一緒に取り組んだり励ましたりしたことで、様々な運動遊びに根気強く取り組む幼児が増えた。友だちが頑張っている姿から刺激を受けたり、友だちと一緒に取り組んだりしたことで、運動遊びに苦手意識をもっていた幼児も、やってみようとする姿が見られるようになった。 〇教師が進んで挨拶をすることを心掛けてきたことで、自分から挨拶をしたり動作や表情で表現したりする幼児の姿が増えた。 〇園で野菜を栽培・収穫・調理し、みんなで一緒に食べる経験が、様々なものを食べてみようとする意欲につながった。 〇体験型事業を通して、様々な体の動かし方を経験することができた。 ◇「幼児たちが、体を動かして遊ぶ場、機会として、幼児期の体験は、大きな役目である」と、園づくり協力者会議で意見をいただいた。今後も引き続き、取り組みを進めていく。 ◇基本的生活習慣の定着を図るため、保護者にも啓発していきながら、引き続き取り組んでいく。 ◇雨天時にも体を動かせる環境設定について再度検討し、体づくりを進めていく。	

重点目標４	地域・保護者と連携・協働する教育の推進	4
主な方策 成果と課題	〇送迎時に遊びの様子や幼児の成長の姿等を保護者に伝えたり、保護者から幼児の家庭での様子や子育ての悩み等を聞いたりし、幼児への関わり方を共に考え、連携を図った。 〇写真で掲示したり、インスタグラムに掲載したりし、幼児の遊びや園の取り組み等を知らせることができた。クラスでドキュメンテーションを掲示する機会も多くあり、保護者と共に、成長を振り返ることができた。今後も、見やすい工夫をし、継続していく。 〇５歳児が梅ちぎりに出かけ、地域の方との交流をもつことができた。また、園外保育で地域に出かけ、地域の自然や人に親しむことができた。 〇保育参加を実施し、保護者が普段の遊びの様子を知り、他の幼児たちと触れ合う機会となった。 〇地域、小中学校等へ向けて、写真や人権だよりで園の取り組みを紹介する機会をもつことができた。 ◇今後も、園の取り組みをより知ってもらう機会を工夫して作っていく。	

２　改善方針

＜重点目標１＞
・人と関わる心地よさを味わい、自分の存在を肯定的に受け入れられる環境をつくることで、自尊感情を高めることにつなげていく。
・相手の話を聞いたり、思いを伝え合ったりする機会を大切にし、「伝えよう、聞こう」とする気持ちを育む。
＜重点目標２＞
・職員間で連携を図り、幼児たちが興味を示し主体的に遊び出せる環境構成や援助について対話し共有する。
・実施方法を工夫しながら、園外保育や地域との交流の機会を増やす。
＜重点目標３＞
・身の回りのことを自分で行う経験を引き続き積み重ねられるようにし、自信につなげる。
・ホールやテラス等の環境も活用しながら、幼児たちが生き生きと体を動かして遊ぶことができる環境設定を工夫する。
＜重点目標４＞
・幼稚園から積極的に働きかけ、地域や保小中と連携を図り、教育活動を充実させる。
・写真や動画を通して、「主体的な遊びの中での学び」を保護者や地域へ伝える。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　内部幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	○基本的生活習慣の確立においては昨年と同様にそれぞれの幼児の姿に合わせて丁寧に働きかけていくことで、幼児が自分でする姿につながっていった。 ○給食やクッキング、野菜の栽培で様々な食材に触れ、調理法で味わい、食への関心が高まった。食事の場面では意欲的に食べる姿が見られた。 ○体を意識した遊び、体操、リズム、ドッジボールやおにごっこなどを自ら選ぶ活動だけでなくクラス活動でも意識して取り入れていくことで、様々な体の使い方を経験することにつながった。また、体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができた。保護者アンケートで『体を動かすことに興味をもったり好きになったか』の項目でも高評価を得ることができた。 ◇よく噛んで食べる大切さ、箸の使い方、食事の際の姿勢、食材が体のどのような力につながっているのかなどを今後も継続して幼児に伝えていき、体づくりにつなげていきたい。 ◇一つの遊びを継続して楽しんできたが、その時期体の使い方が偏ってしまった。体全体を使った環境構成をさらに考えていきたい。	

重点目標２	友だちと共に生活を作り出す力の育成	4
主な方策 成果と課題	○保育者から挨拶をすることで幼児にも心地よさが伝わり、幼児から挨拶する姿につながった。 ○どのような姿も一人一人の姿としてその思いを保育者が受け入れ、周りにも発信したり、思いを友だちと共有できるようにすることで互いに認め合う姿につながった。 ○言葉やしぐさなど幼児の様々な表現を受け止めていくことで、安心して自分の思いを出す姿につながっていった。遊びの中で保育者が相手の思いに気付くことができるような言葉をかけていくことで互いの姿を認めたり、励まし合ったりする関わりが見られた。保護者アンケートで『先生や友だちとかかわるうれしさや楽しさを感じていますか』の項目で１００パーセントの評価を得ることができた。 ○乳児向けから物語まで幅広く絵本を読み、おもしろさをクラスで共有したり、繰り返し読んだりすることで、家族や友だちと一緒に絵本に親しむことにつながった。 ◇自分の思いを出す姿は増えてきたので、今後は相手の気持ちや言葉を聴くというところにさらに意識をもてるようにして仲間づくりにつなげていきたい。	

重点目標３	身近な環境に自ら考えてかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	○４、５歳児が隣のクラスに位置しているので自然と関わる機会も多く、５歳児が遊びを試したり、考えたりする姿が４歳児のやってみたいという意欲につながった。 ○幼児の興味・関心を受け止め、遊びのしかけや環境を工夫することで自らの遊びの中で幼児が考えたり、発信したりする姿が見られた。 ○園内の自然を遊びに取り入れたり、疑問に思ったことは幼児と一緒に図鑑で調べたりすることで身近にある自然への興味につながっていった。 　保護者アンケートで『身近にあるもので工夫して遊ぶようになったか』の項目で高評価をいただくことができた。 ○幼児体験事業で様々な体験活動を行い、体験したことを遊びに活かしながら、幼児同士で遊びをすすめていこうとする姿が見られた。 ◇園内の自然、生き物には十分に触れることができたが、園外で新たな発見につながる機会をもつことが少なかったので、園外での活動を意識していきたい。 ◇幼児が試してみる環境を設定することで、遊びが継続し、得られる発見が多くあった。継続できるような環境の工夫をさらに考えていきたい。	

重点目標４	保護者・地域との連携・協働	4
主な方策 成果と課題	○はげまし隊の方など地域の方と触れ合う機会が多く、交流を深めることができた。 　日頃から地域の方に親しみを持ち接することで外部の講師の方などにも挨拶したり、自ら話しかけたりと積極的な関わりをもつ幼児の姿があった。 ○手巻き寿司作り、体遊び、助産師さんの命の話など様々な講師さんを招いて親子で触れ合う体験事業を取り入れていくことで、幼児が大切にされていることを実感する機会をつくることができた。 ◇写真など視覚的にも伝わりやすいものも利用しながら、引き続き保護者と幼児の姿や思いを共有していくことを大切にしていきたい。また、クラスの日常の活動や姿なども掲示する機会を増やしたい。 ◇保育園と交流する機会を増やすことで、さらに同じ地域で育つ幼児同士の交流を深めることにもつながるので、計画していきたい。	

２　改善方針

○近隣の園校や地域の方から情報を聞くなどしながら、園外保育の計画を学期ごと、月ごとなどに計画し職員で共有してすすめていく。 ○ドキュメンテーションを計画的にすすめていくことで、保護者に発信する機会を増やしていく。 ○今後も幼児同士で話し合う、聴き合うということを意識した活動を保育者が取り入れていくことで、幼児同士の関わりを深めていく。 ○生活習慣など保護者と思いを共有しながらすすめてきたが、さらに家庭と連携を取り、大切にしていることを伝えると共に、一緒に取り組んでいけるよう、今後工夫していきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　海蔵幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	3
主な方策 成果と課題	○保育者が一人一人の幼児の思いやイメージを探り、受け止め、発達や興味に合わせた環境を整えていくことで、幼児の意欲や自信が高まり自分のやりたい遊びを見つけ遊び始めることができるようになった。 ○年度当初は保育者を頼りながら遊ぶ姿があったが、友だちと一緒に遊びをすすめていくことができるよう保育者が幼児同士をつなぐ関わりをしていったことで、友だちと誘い合い遊びを進めていく姿がみられるようになった。 ○遊びの楽しさやおもしろさを十分に味わう経験をしてきたことで、遊びの中で思いがぶつかることがあっても自分たちで解決しようとし、また遊び方を相談して遊びを工夫しようとする姿にもつながった。 ●幼児が「昨日の続きをしたい！」と遊びを継続して楽しめるよう、保育者は幼児が遊びの中で何を楽しんでいるのかを捉え、幼児の発達や興味に応じてどのように遊びを展開していくとよいかなどを保育者が見通しやねらいを持ち取り組める、PDCAサイクルを保育者間で確実に共有できる工夫を考えていく。	

重点目標２	たくましい体としなやかな心を育む活動の充実	4
主な方策 成果と課題	○保育者が積極的に戸外で体を動かして遊んだことで、幼児は追いかけっこや鬼ごっこ、ボール遊びなど様々な遊びを通して体を動かす楽しさを味わうことができた。 ○４歳児は体の使い方がぎこちない幼児もいたが、テラスやホールに巧技台やゲームボックス等でいろいろな動きを経験できるように設定したことで、幼児は楽しみながら挑戦し体の柔軟な動きにつながった。 ○５歳児はできないことや負けることが不安な幼児もいたが、竹馬や鉄棒、雲梯など自分なりの目標をもって取り組む姿を認めていったことで、やり遂げる達成感を味わうことができた。また集団での遊びを通してルールやチームの作戦を話し合う中では、互いに納得したり折り合いをつけたりできるまで粘り強く話し合う力も育ってきた。 ●幼児の好きな遊びを通していろいろな体の使い方ができるよう、幼児の姿や発達に応じた保育者の意図的な環境を工夫していく。 ●園外保育をする機会が少なかった。年間の園外保育計画を立て、歩く経験や地域を知る機会を作っていく。	

重点目標３	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	○相手の顔を見て、子ども同士で大きな声で挨拶が出来るようになった。 ○混合クラスで4・5歳児が共に過ごす中で、5歳児が4歳児に積極的に声をかけたり、行動を共にしようとしたり、言葉で表現出来ない気持ちを理解しようとしたりするなど、相手の思いに寄り添おうとする気持ちが育った。 ○保育者に話を聞いてもらい安心する姿があったが、子ども同士で話し合える場を設定し、互いに思いを出し合う姿を大切にしてきたことで、自分の思いを言える関係が出来てきた。 ○四日市幼稚園と羽津幼稚園との合同保育ではいろいろな友だちの思いや考えに触れる機会になり、自分から相手に気持ちを伝えたり、相手の気持ちを知ろうとする姿につながった。 ●園児数が少ないため保育者の関わり方を工夫し、場面に応じて見守ったり、待ったりするなど、幼児が主体的に考え行動していくための手だてを職員間で連携していく。 ●子ども達同士が誰にでも自分の思いを伝え、聞き合い、課題に向かって解決していけるように、幼児一人一人が自分に自信が持てる取り組みを続けていく。	

重点目標４	地域との連携と子育て支援の充実	4
主な方策 成果と課題	○地域の保育園との交流や合同保育では、事前に打ち合わせを行い園児の交流が深められるように取り組んだ。回数を重ねていくと、園児同士声を掛け合って遊ぶ姿が見られるようになった。 ○地域の方との交流では園児の出し物を披露するだけでなく、一緒に遊ぶ時間を設けたことで幼児は親しみの気持ちをより感じることができた。また、園外保育を通して地域を知る機会につなげていった。 ○家では経験しにくい体操や触れ合い遊びなどを取り入れていったことで、遊び会の充実につながり、参加者が増えた。 ○学びの一体化の公開保育では、幼稚園の遊びの中の学びの芽生えを小・中学校の職員に発信する機会になった。事後研では小学校以降にどのようにつながっていくのかなど保幼小中の職員で成果や課題を出し合えた。 ○クラスだよりで幼児のエピソードを毎月載せたことで、幼児の具体的な姿から保育で大切にしていることや育っている力を保護者にわかりやすく伝えることができた。 ●今後も幼児の姿や園の様子を保護者や地域にわかりやすく発信していく工夫をしていく。また、地域から期待されていることを掴み、園としてできることを考えてく。	

２　改善方針

・保育者が幼児の思いや考えを十分に受け止め遊びへつなげていくことができた。今後は、幼児同士が思いを交わし合い、イメージを広げ、試したり、工夫したりしながら遊びを展開していくきっかけとなる関わりや環境を工夫していく。
・保育者が、幼児の姿を共有することで、幼児理解を深めることにつながり、また多面的に捉えることができる。計画的に話し合いの時間をとり、ねらいや手立てを考えていく。
・いろいろな動きを経験し体を動かす楽しさを味わったり、挑戦する気持ちを育めるよう、遊びの内容や環境を工夫していく。失敗することへの不安な気持ちを軽減できるように、教師の手だてについて具体的に考えていく。
・保育者が先回りしてしまうのではなく、個々の幼児のペースやタイミングを考え、幼児自ら伝えたり考えたり、自分でしようとする意欲を大切にしていく。
・一人一人の保育者の持ち味を生かして幼児に関わっていくことを大切にしていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 笹川中央幼稚　園

１　園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	3
主な方策 成果と課題	・生活習慣では朝の身支度など日々繰り返し行うことにより身についている。今後は、自分の体の健康を守るために必要なことを、意識して行うことができるように保育者が声掛けをしていきたい。また、文化の違いや生活習慣の違いから朝ごはんを食べてこない幼児や、生活リズムが整っていない家庭があり、引き続き家庭への啓発が必要である。通信や参観時、懇談などで啓発していく。 ・入園までの過ごし方や住宅環境などから、入園前に体を使う経験が少ないことを感じるため、体力づくり、体作りを重点的に取り組んできた。リズム遊びや、運動遊び、ふれあい遊びなどで体の動きを意識する活動を多く取り入れてきたことで、それぞれの幼児に成長が見られ、戸外遊びや運動遊びを積極的に楽しむようになった。 ・栽培や食育を通して、様々な食材に興味を持ち、初めての食材も少しずつ食べられるようになった。年長児は買い物やクッキングを行い、より食への興味を持つことができた。	

重点目標２	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	3
主な方策 成果と課題	・様々な国にルーツを持つ幼児が在籍しているので、言語の違いや外見の違いなど一人一人の「ちがい」に関して自然に受け入れている。保育者も様々な国のことや文化について「知ろう」としていく姿勢が、子どもたちにも伝わり「ちがい」を柔軟に受け止めることができるのだろう。また、特別な支援を要する幼児に対しても「どうするとみんなで楽しむことができるか」を考えようとする姿が育っている。 ・言語が異なる環境の中、まずは自分の思いを母語で出せることを大切に保育をしてきた。ありのままの姿を受け止め、園や保育者が安心安全な環境となるよう意識してきたことで、共通の言語である日本語でも伝えようとする姿へと変わってきた。何か問題が起こったとき、幼児同士で話を聞き合ったり伝え合ったりするようになった。友だち関係も同じ言語を話す幼児同士から様々な幼児へと広がっている。	

重点目標３	豊かな生活経験をし、聞く・話す・伝える力を育てる	3
主な方策 成果と課題	・幼児の心が動き、ワクワクして遊びが充実するような環境を意識して作ってきた。保育者も遊びの中に入り、共に遊びを楽しみながら作り上げていくことで、遊びが深まってきた。遊びの中で楽しさを共感し、「伝えたい」「話してみよう」「聞いてみよう」と思える関係作りを心掛けてきた。身振り手振り、簡単な単語などで伝え合い、分かり合える、伝わるということがうれしいという気持ちを共有してきたことで、共通言語である日本語で伝えようとする姿が出てきた。 ・自分の感情を表現することはできるが、同じ言語であっても言葉で相手に伝えることが難しくトラブルになる場面があった。その都度、どういう言葉で表現すると相手に伝わるかを保育者と共に考えたり、相手の言葉を傾聴したりすることを大切にしてきた。その中で、自分と相手の思いや気持ちが違うこともあることを知ったり、相手が何を伝えようとしているのか、どんな気持ちなのかを考えたりしてきた。	

重点目標４	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
主な方策 成果と課題	・毎月の通信、日々の掲示板でのドキュメンテーション、送迎時や参観・懇談会などの場を活用して、クラスや幼児の様子を丁寧に伝えるようにしてきた。また、インスタグラムで園の様子を発信し、送迎時に会うことができない保護者も含めて広く伝えるようにしている。 ・必要に応じて家庭訪問をして保護者との連携を図った。園での様子を伝えたり、家庭の状況や子どもの様子などを把握することができ、今後もこのような取り組みを大切に考えていきたい。 ・保護者同士もＰＴＡ主催の行事や園行事などを通して交流できる場を作ることで、つながりができた。 ・職員間では、勤務体制が様々であるため、職員間の連携が課題である。日々のコミュニケーションをしっかりと取ったり、職員会議の内容を文書で共有したりして、幼児の様子を共通理解している。	

２　改善方針

・外国にルーツを持つ幼児・保護者が多い中、コミュニケーションを図ることは難しいが、気持ちがつながっていくことを目指し、様々な活動を通して共感し合い、信頼関係を築いていくことが大切である。
・保育者の人権感覚を磨き、幼児同士の中にある関係性やそれぞれの幼児の思いに気づき、タイミングを逃さず保育者が関わっていく。
・幼児同士が遊びの中で楽しさを共有し、つながり合っていくことができるような環境を整える。またそのための保育者の資質向上に努める。
・園の教育内容や、日々の取り組みなどを掲示やインスタグラムを活用して発信していく。また懇談や参観日など以外にも、保護者が園に来ることができる機会を増やし、保護者と話す機会を設ける。具体的な幼児の成長した姿を保護者と共有し、喜びを分かち合い、連携を深めていく。